改訂長谷川式簡易知能評価スケール（HDS-R）

評価・採点記録用紙 ／ STROKE LAB編集版 ／ 1／3

対象者ID：　　生年月日：　　年　　月　　日　実年齢：　　歳
評価日：　　年　　月　　日　時刻：　　評価者・職種：
場所：　　本人への説明・了解：　　同席者・関係：
実施条件（眼鏡・補聴器・言語・疲労等）：

本人が回答し、評価者が記録・採点します。得点に○を付け、各項目の得点を記入。回答欄は本人に見せません。

1　年齢　　得点　　／1

お歳はいくつですか？

実年齢から±2年以内は正答。　回答：　　歳　　得点：0・1

2　日時の見当識　　得点　　／4

今日は何年何月何日ですか？　何曜日ですか？

年・月・日・曜日の正答に各1点。それぞれ分けて尋ねてもよい。

回答：　　年　　月　　日　　曜日

採点：年 0・1 ／ 月 0・1 ／ 日 0・1 ／ 曜日 0・1

3　場所の見当識　　得点　　／2

私たちがいまいるところはどこですか？

自発正答2点。正答が出なければ約5秒後に「家ですか？ 病院ですか？ 施設ですか？」と選択肢を示し、正答1点。誤答0点。

回答：　　ヒント：なし・あり　得点：0・1・2

4　3つの言葉の記銘　　得点　　／3

これから言う3つの言葉を言ってみてください。あとでまた聞きますのでよく覚えておいてください。

使用系列に○：　1［桜・猫・電車］　2［梅・犬・自動車］

最初の復唱で正答した語に各1点。採点後、必要なら再提示。提示は初回を含め計3回まで。覚えられなかった語は項目7の再生課題から除外し、その語を記録する。

語	最初の回答	得点	3回までの記銘
a 桜／梅		0・1	成立・不成立
b 猫／犬		0・1	成立・不成立
c 電車／自動車		0・1	成立・不成立

項目4→5→6→7は連続して実施。次ページの項目5へ進んでください。

STROKE LAB編集版／2026年11月　出典：加藤伸司ほか．老年精神医学雑誌．1991;2(11):1339–1347.

HDS-R｜計算・逆唱・遅延再生

対象者ID：　　評価日：　　年　　月　　日

5　計算　　得点　　／2

100−7は？　それからまた7を引くと？

各正答1点。最初が誤答ならこの項目を打ち切る。2問目に「93から」と答えを教えない。

1回目：　　［正答93］0・1　　2回目：　　［正答86］0・1

6　数字の逆唱　　得点　　／2

私がこれから言う数字を逆から言ってください。

6−8−2 → 回答：　　［正答2−8−6］0・1

3−5−2−9 → 回答：　　［正答9−2−5−3］0・1

各正答1点。3桁に失敗したらこの項目を打ち切り、項目7へ。

7　3つの言葉の遅延再生　　得点　　／6

先ほど覚えてもらった言葉をもう一度言ってみてください。

自発正答は1語2点。出ない語に所定のヒントを1つずつ与え、正答1点。正答できなければ0点。項目4で記銘不成立だった語は再生課題から除外し、下欄に記録。

語／ヒント	自発回答	ヒント後の回答	得点
a 桜／梅 植物			0・1・2
b 猫／犬 動物			0・1・2
c 電車／自動車 乗り物			0・1・2

記銘不成立で除外した語：

項目4の系列と記銘状況を確認して、項目7を採点します。
自発回答とヒント後の回答を分けて記録してください。記銘不成立で除外した語を、推測で正答扱いにしたり、残りの得点から満点換算したりしません。

項目4〜7の実施中に気づいたこと／手順の変更・打ち切り理由

HDS-R｜物品・語の流暢性・合計

対象者ID：　　評価日：　　年　　月　　日

8　5つの物品の再生　　得点　　／5

これから5つの品物を見せます。それを隠しますのでなにがあったか言ってください。

身近で相互に無関係な実物5個を用意。例：時計・鍵・タバコ・ペン・硬貨。名称を確認して提示し、隠してから回答してもらう。正答した物品に各1点。

記録	①	②	③	④	⑤
使用物品					
回答					
得点	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1

9　野菜の名前（語の流暢性）　　得点　　／5

知っている野菜の名前をできるだけ多く言ってください。

回答を順に記録。重複は数えない。途中で詰まり、約10秒待っても出なければ終了。

①　　②　　③　　④　　⑤

⑥　　⑦　　⑧　　⑨　　⑩

重複を除いた数：　　個　　得点：0・1・2・3・4・5

0〜5個＝0点 ／ 6個＝1点 ／ 7個＝2点 ／ 8個＝3点 ／ 9個＝4点 ／ 10個以上＝5点

合計：　　／30点　　評価者確認：

内訳：①　＋②　＋③　＋④　＋⑤　＋⑥　＋⑦　＋⑧　＋⑨

20点以下は認知症が疑われる目安です。点数だけで診断しません。
21点以上でも生活上の変化があれば確認。規定の打ち切りと、難聴・失語・拒否・中断等で実施できない状況を区別し、独自の欠損補完・満点換算はしません。

実施不能・中断理由／観察所見・生活上の困りごと／共有・対応

STROKE LAB編集版：質問・配点を参照資料に沿って掲載し、回答欄と記録欄を追加。公式発行用紙ではありません。
参照用紙：https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/tool/pdf/tool_05.pdf
実施解説：加藤伸司．老年臨床心理学研究．2023;4:47–55. doi:10.50944/jjcgp.4.0_47
出典原著：加藤伸司ほか．老年精神医学雑誌．1991;2(11):1339–1347.　改訂：2026年11月